

令和6年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立東蒲中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・第2学年では、世界の姿や日本の姿の基礎的な読み取り問題の学習の定着が見られた。歴史的分野では、飛鳥時代から室町時代までの日本における資料の読み取りや、考察・表現の面で成果が出ており、歴史的分野では目標値を達成している。
- ・3学年、ICTを活用して、映像など視覚的教材を提示することで興味・関心を喚起することを重視した授業を行うことにより、学習への主体的な態度や調べ学習を通して授業内以外で日常における社会科分野への知識の収集等が身についてきたと考えられる。

(2) 課題

- ・第2学年は、諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能や、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、思考・判断したことを説明したりする力を一層育成する必要がある。また、地理分野の世界の環境や諸地域での基礎的な読み取り問題の学習の定着も必要である。
- ・学習への興味・関心が瞬間的なものになりがちである。その場の楽しさに留まらず、教科間を超えた領域や、日常生活に至るまで様々な方向で疑問を持ち、知識をもとに思考するなどの応用に活かせるようにしていく。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	目標値まであとすこしである。歴史分野が他分野にくらべポイントが大きく達していない。		
第2学年	達成率は50%に止まる。正答率も目標値に達していない。	達成率は60%に止まる。正答率も目標値に達していない。 (第1学年時)	
第3学年	地理分野、歴史分野ともに目標値に到達していない。また、基礎に比べ活用の正答率がより達成率に問題があると考えられる。	達成率は50%に止まる。正答率も目標値に達していない。 (第2学年時)	達成率は50%に止まる。正答率も目標値に達していない。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識の定着は、目標値にわずかに到達していない。歴史分野の到達が大きく達していないので、復習も兼ね学びなおしの必要性を感じる。	目標値に達していない。学んだ知識を言葉や文章にし、表現する能力が足りないと考える。	複数の観点から考えて、深く考え取り組む、主体的な態度が苦手であるとする。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地理の世界の諸地域での正答率が低く、50%を下回っている問題が3題もあり、基礎知識の定着が必要である。	歴史・地理の記述問題で4題も目標値に達成しておらず、歴史分野では20%の正答率ととても低く、考察・表現する力が不十分である。	無解答での解答が14%を越えている問題が4題もあり、多面的に考えられずに、学習に取り組む態度に課題が見られた。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値に大幅に達していない。また、地理分野は項目別にみても目標値以上がない。3学年は、地理分野の基本的な地域の定着の不十分さと、再度学びなおす必要がある。	目標値に達していない。資料を読み取り考察する能力、資料を基に持っている知識を結びつける能力が不十分である。	提示された資料に対して、粘り強く考え、論理を展開すること。また、自分の考えをまとめることに課題が見られる。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容別として、鎌倉と室町の正答率が低い。基礎的な部分から大きく抜けていると考えられるため、時系列や人物関係なども踏まえつつ、定期的な小テストなどから学習の整理を行いたい。	授業で扱う際に、要点整理や史料の読み取り・つながりなど暗記に頼らず、理解につながるような学習を積極的に行う。	自分の意見を構築して、発表する授業を取り入れる。また、調べ学習などから自身で資料を集める・読み取る能力を養っていく

（2）第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元ごとに小テストなどを実施して、知識の定着を図ることで達成率の値を60%以上にしたい。ICTを活用し、視覚的な情報を用いて、生徒の知識の向上を目指す。	地理の授業で、資料から様々な気候や生活などを読み取る練習を多くする。また、レポート作成の課題を多くし、既習した単語を使用させ、記述問題になれさせていく。	ICTを活用して、映像など視覚的教材を提示することで興味・関心を高める。記述問題の正答率が低く、無回答の生徒も多かったので、自分の意見を書かせ、発表していく授業を多く導入していく。

（3）第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地理分野を中心に、過去に学んだことの復習を行い、知識の定着を図る。また、小テストや3年間の総まとめの課題などを通して再度、知識の定着と復習を行う。	普段から、資料の読み取りを行うとともに資料同士の関連性などにも重点を置き理解を図る。また、得た知識をどのように表現につなげられるのか、段階を踏んで学習を行う。	身近に感じられるようなテーマをもとに学習への興味を引き出す。また、問いに対して生徒が多く対話する機会を与え、主体的に学習に取り組む態度を養う。